

第3章 将来像と目標

1 将来像

日々の暮らしの中で物を大切にする豊かな心が広がり、
誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、
ともに力を合わせ「循環型社会の形成」に取り組む、
SDG s 未来都市・江戸川

平成27年の国連総会で採択されたSDG sは、「Sustainable Development Goals」の略称で、「持続可能な開発目標」を意味するものであり、平成28年から令和12年までの世界共通の国際目標です。17の目標とそれらに付随する169のターゲットから構成されており、環境・経済・社会のバランスを取りながら、現在から将来までのすべての人が平和で豊かに暮らせる「誰ひとり取り残さない世界」を実現する取り組みです。

食品ロスの問題やプラスチックごみの焼却に伴い発生する温室効果ガスの問題、非常時におけるごみ処理の問題など、ごみに関連する様々な課題は、SDG sに関係している重要なテーマです。

江戸川区では、令和3年7月に共生社会の実現に向けた決意表明ともいうべき「ともに生きるまちを目指す条例」が施行されています。これは、一人ひとりを尊重し、誰もが安心して暮らせるまちをつくるために、「人」、「社会」、「経済」、「環境」、そして「未来」とともに生きる、江戸川区の理想像を表したものです。

第1次Edogawa ごみダイエツプランでは、「日々の暮らしの中で物を大切にする豊かな心が広がり、みんなが喜んで「3つのR」に取り組む、循環型都市・江戸川」を将来像として掲げてきました。

本計画では、第1次Edogawa ごみダイエツプランの理念を引継ぎつつ、「ともに生きるまちを目指す条例」やSDG sの趣旨を踏まえ、『日々の暮らしの中で物を大切にする豊かな心が広がり、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、ともに力を合わせ「循環型社会の形成」に取り組む、SDG s 未来都市・江戸川』を将来像として掲げます。



9つのR？3 R以外の大切なR ①

循環型社会形成を目指すために大切な行動理念として、Reduce（減らす）、Reuse（再使用する）、Recycle（再生利用する）の「3つのR（3 R）」があります。また、令和元年に国が策定したプラスチック資源循環戦略では3 Rに Renewable（再生可能資源への代替）を基本原則とする考え方が示されました。

このほかにも、循環型社会を形成するうえで大切な「R」がありますのでご紹介します。

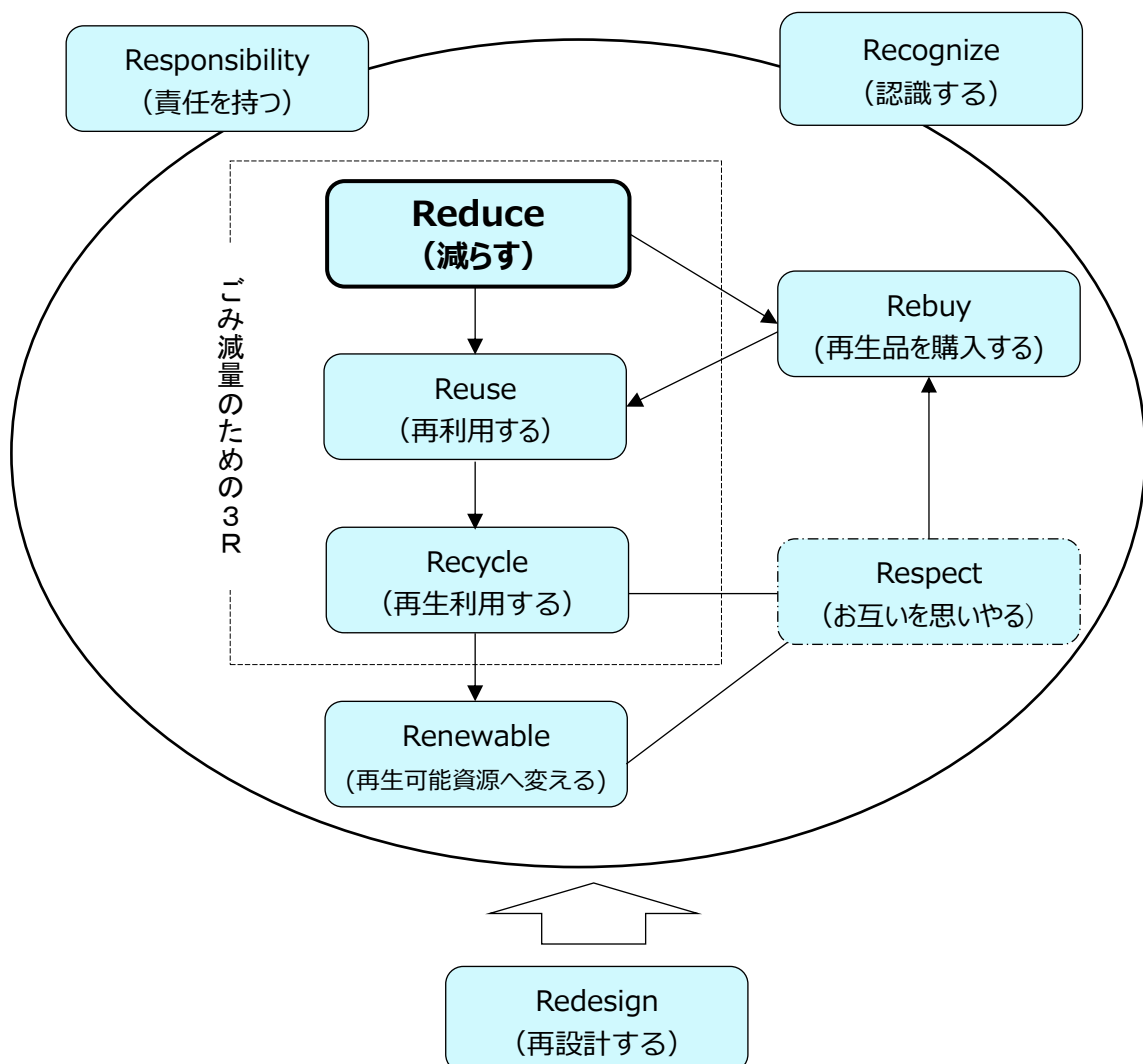
大切なR	内 容
Recognize 認識する	ごみに関する様々な課題についてしっかり学び、正しく認識します。
Responsibility 責任を持つ	一人ひとりがごみの発生からごみの処分まで、将来世代に対しても責任を持って行動します。
Reduce 減らす	ごみを出さないように工夫します。具体的な行動として、Refuse(断る)、Rethink（必要性を再考する）、Rental（買わずに借りる）なども含まれます。
Reuse 再使用する	使い終わったものを捨てないでくり返し使います。具体的な行動として Repair(修理する)、Reform(改良する)、Return(戻す)、Renovation(修復する)なども含まれます。
Recycle 再生利用する	使い終わったものをもう一度資源として利用します。Refine(分別する)も含まれます。
Rebuy 再生品を購入する	再生品を積極的に購入します。Regeneration(再生品の利用を心がける)も含まれます。
Renewable 再生可能資源へ変える	再生利用が困難な場合には熱回収等により再生可能資源へ変えます。
Respect お互いを思いやる	ごみを捨てる際には、ごみ処理に関わる全ての人がお互いを思いやり行動します。
Redesign 再設計する	それぞれの取り組みを見直し、再設計を行います。

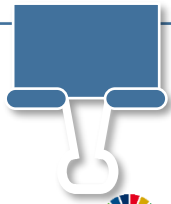


9つのR？3R以外の大切なR ②

江戸川区ではこれまで3つのRを推進してきましたが、誰もが安心して暮らせる共生社会を実現するためには、3つのRだけではなく、一人ひとりがごみに関する問題について正しく認識してごみの問題について責任を持つことや、ごみの処理に関わる全ての人がお互いを思いやり行動することなどが必要です。また、循環型社会を構築するためには、再生品を購入したり、再生利用が困難な場合には熱回収等により再生可能資源へ変えていくなどの取り組みも大切です。

これらの取り組みをまとめたものが「9つのR」です。全て覚えるのは大変ですし、覚えることが目的ではありません。少しずつでもできることから取り組みましょう。





SDGs と Edogawa ごみダイエツトプラン

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



江戸川区は、「ともに生きるまち」を目指して
SDGsに取り組んでいます。

<Edogawa ごみダイエツトプランと関連するSDGsの目標は以下のとおりです>



食品ロス削減のためのフードドライブの実施等により、未利用食品を必要とする方へ適切に引きわたるようにします。



環境教育冊子などを使った環境学習や出前講座、ごみ処理に関する施設（リサイクル施設、清掃工場、埋立処分場など）の見学会を実施し、区民の学びを促進します。



すべての区民に対してごみ収集と資源回収を実施します。



くみ取りし尿や浄化槽などの生活排水の適正処理を推進します。



再生利用が困難な燃やすごみなどについては、熱回収等によるエネルギー変換を推進します。



持続可能な生産消費形態を確保するため、食品ロスやワンウェイプラスチックなどの削減を促進します。また、プラスチックの資源循環を推進し、マイクロプラスチック問題やサーキュラーエコノミーの実現に寄与します。



AIチャットボットやAIを活用して清掃車両の有効活用を行うなど、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に取り組みます。



誰もが安心して気持ちよく生活できる住環境を維持するため、ごみの適正処理を推進します。



温室効果ガスの排出を減らすため、プラスチックの資源循環を推進するとともに、環境負荷の少ない清掃車両導入の検討を行います。



ごみの削減を促進することで、森林破壊問題解決などに寄与します。また、環境保全の観点からも食品ロスの削減を推進します。



江戸川区の高い地域力を活かし、区民・事業者・区による協働体制を促進します。

2 基本方針

本計画では、将来像を実現するための柱となる3つの基本方針を定めます。

基本方針1 協働の推進

共に学び、行動につながるシステムを構築し、区民・事業者・区の協働による循環型社会の形成に向けた取り組みを広げます。

ごみ問題解決のために区民、事業者、区が共に学び、行動する、“学ぶ（学習）⇒実践⇒交流⇒次の行動へ”というプロセスを組み込んだシステムの構築、プログラムの展開を図るとともに、ごみ問題の原因・影響などに対する正しい評価情報や対応策、さらには実施効果などについて多くの区民に理解してもらい、循環型社会の形成に向けた取り組みにつなげていきます。



基本方針2 ごみ減量の推進

持続可能な生産消費形態を構築するため、リデュース>リユース>リサイクルの優先順位に基づく3Rの実践により、ごみ減量への取り組みを行います。

これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄というごみを大量に発生させてしまう社会経済システムを改め、環境に負荷の少ない循環型都市を目指すために、積極的にリデュース・リユース・リサイクル（3R）の取り組みを推進します。



基本方針3 適正処理の推進

誰もが安心して気持ちよく生活できる清潔で安全な都市を維持するため、ごみの適正処理を推進します。

区は、区民の生活環境を保全し公衆衛生を向上させるため、ごみの適正処理を行うことで誰もが気持ちよく安心して生活できる清潔で安全な都市を維持していきます。

また、近年多発している大規模災害や、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下においても、ごみの適正処理が行える体制を構築します。



3 目標

江戸川区では、平成12年度から令和2年度の21年間で19.7%のごみの減量を達成しています。1年あたりに換算すると、毎年約0.94%のごみを減量している計算になりますが、近年はごみ減量のペースが鈍化しています。

図3-1 ごみ量の推移

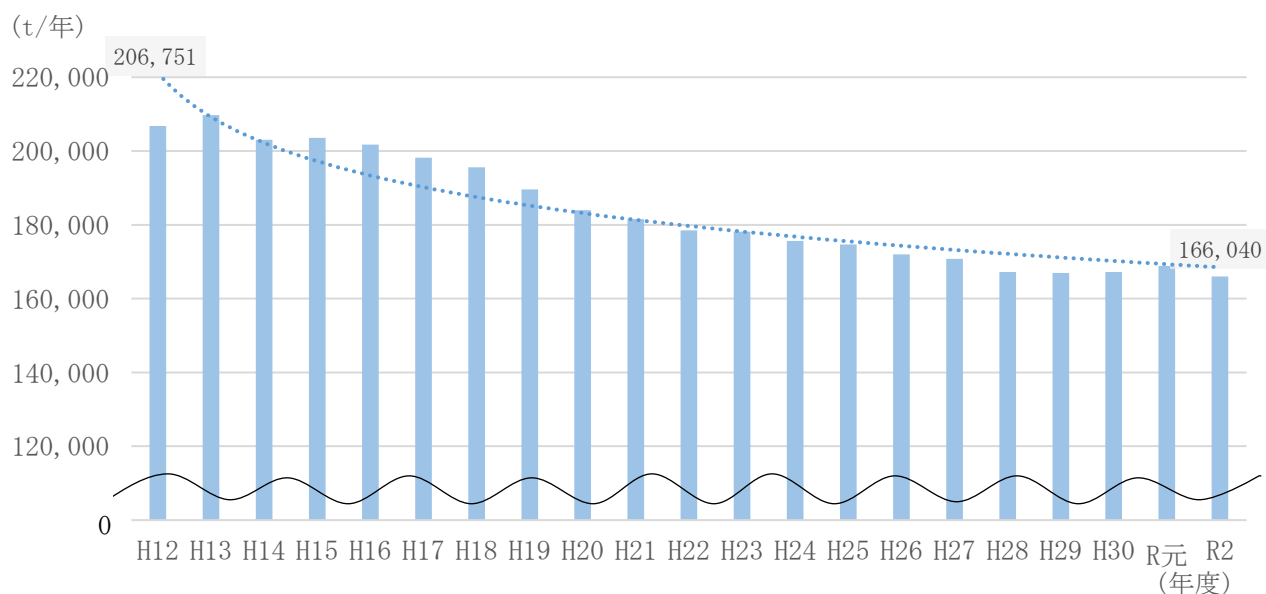


図3-2 ごみ量削減率の推移

